

## オリンピック・パラリンピック・ムーブメント推進校 実施報告書

【都道府県】 福岡県 \_\_\_\_\_

【学校名】 岡垣町立戸切小学校 \_\_\_\_\_

【テーマ】 I II **III** IV V \_\_\_\_\_

- I オリンピズムの教育的価値
- II おもてなし精神とボランティア
- III パラリンピックと障害者スポーツ
- IV 日本文化と異文化・国際理解
- V スポーツを楽しむ心

### 【実践研究タイトル】

障害者スポーツについての理解を深めよう！

### 【実施学年、部、講座等】

全学年（男子 40名・女子 38名）

「オリ・パラ」に関するアンケート実施 講演会実施

演題：「ブラインドサッカー体験を通して『障害者スポーツ』について考えよう！」

講師：アビスパ福岡スクール推進部コーチ 高良周作氏 藤井潤氏

第5学年（男子4名・女子8名）

総合的な学習の時間（単元「調べよう！パラリンピック」）

体育（単元「とぎりんフットサル」）※ブラインドサッカー含む

### 【目的・ねらい】

- パラリンピックの競技についての理解を深める。
- 障害のある方々が、一生懸命に競技スポーツに取り組む姿から、スポーツを愛する気持ちに共感し、自分自身のスポーツへの関心や意欲を高める。

### 【種類】（当てはまるものに○）

- ・ **各教科** (体育) ・ 道徳 ・ 外国語活動 ・ **総合的な学習の時間** ・ 特別活動
- ・ 教科以外での取り組み ( )

### 【実施内容等】

(実施内容)

#### 【全学年対象 「オリ・パラ」に関するアンケート実施】

本事業を受け、児童がオリンピック・パラリンピックについて、どの程度認識しているかを、アンケート調査した。その結果を以下に掲載する。

「オリンピックを知っているか？」という設問に対し、「よく知っている」35%、「少し知っている」49%、「あまり知らない」10%、「全く知らない」6%だった。

「パラリンピックを知っているか？」という設問に対し、「よく知っている」13%、「少し知っている」22%、「あまり知らない」34%、「全く知らない」31%だった。

オリンピックに比べ、パラリンピックの方が、児童の認識が低いことがうかがえた。これは学年間に差はなく、全学年で同じ傾向が表れていた。

「2016年の開催国及び開催都市を知っているか？」という設問に対しては、「よく知っている」「少し知っている」と回答した児童の割合が8%ととても低く、国名ブラジルを回答できた児童は6名、開催地リオデジャネイロについては2名であった。

「2020年の開催国が日本であることを知っているか？」という設問に対しては、「よく知って

いる」「少し知っている」と回答した児童の割合は68%と高かった。

どちらも報道されているが、児童にとっては開催期日の近いブラジルよりも、開催地が日本である2020年大会の方が認識されているということがわかった。

### 全学年対象 講演会

(演題「ブラインド・サッカーを通じて『障害者スポーツ』について考えよう！」)

オリ・パラ教育推進事業と本校PTA家庭教育講演会を兼ねて、上記の演題で全校児童及び保護者対象に講演会を実施した。講師としてアビスパ福岡スクール推進部コーチ2名を招き、ブラインド・サッカーの紹介や国際大会に参加しての様子を話していただいた。また、ブラインドサッカーの体験も行った。



説明を受ける高学年児童



パスの受け渡しに関して支援を受ける児童

### 【第5学年 総合的な学習の時間（単元「調べよう！パラリンピック」）】

本校では、4年生の総合的な学習の時間に「福祉教育」の領域で「車いす・アイマスク体験」という体験活動を位置付けた学習を展開してきている。障害者についての理解を深めるとともに、だれもが過ごしやすい学校づくり・街づくりというコンセプトのもとで、自分たちにできることは何かを考えてきている。

そこで、今回は本事業を受け、5年生の総合的な学習の時間に、パラリンピックについての理解を深める学習を位置付け、取り組んできた。「パラリンピックとは何か」、「パラリンピックが生まれてきた背景」について調べることから、児童は自らの課題を設定し、調べ学習へと展開していった。児童が課題としたのは、「パラリンピックの種目や種別」、「パラリンピックの種目に使われている用具類」、「パラリンピックのルール」、「パラリンピアン思い」などである。同じような課題を持った児童でグループを組ませ、調べたことを互いに発表することで、パラリンピックに対する理解を深めることができた。そして、最後に、車いすラグビーの池選手、走り高跳びの鈴木選手のパラリンピックにかける思いについて学習し、自分や他の多くの人たちの人生を背負い生きていること、また、自分のためであると同時に、他の人のためにも一生懸命に練習に励んでいることを、児童は学んでいくことができた。

### 第5学年 体育科（単元「とぎりんフットサル」※ブラインドサッカー含む）

全校児童対象の講演会を受け、第5学年体育科ボール運動領域のゴール型において、総合的な学習の時間と関連させて、「とぎりんフットサル」を設定した。まず、体育科の学習において、ボール

操作及びボールを受けるための動き方についての学習を行い、ゲーム理解を深めていった。そして、ブラインドサッカーを位置付け、ボールを受けるための動きを相手プレイヤーの位置とゴール方向を考えた的確に味方プレイヤーに伝えるコーラー（ゴール裏で指示を出す役）の体験を行った。ブラインドサッカーは視覚が遮られるため、通常のゲームより個々の動きやゲーム展開のスピードが遅く、コーラーの役を通して児童がゲーム状況をどのように捉え、的確に判断して指示を出すことができるかということを見取ることができた。このことは、体育科学習評価の観点である「思考・判断」に大変参考になったと考える。

このような学習を受け、指導計画の終末に「フットサル大会」を設定し、児童はボール運動において視覚がとても大切であることを認識できた。また、今回の学習を通して、視覚に障害のある方々がサッカーに取り組む姿勢、たゆまぬ努力をされていることを感じ取ることができた。



ブラインドサッカーに取り組む児童



ボールの場所をコーラーの声を頼りに探す児童

#### (実践上の工夫点、留意点等)

- ・本校では、4年生の総合的な学習の時間において「車いす・アイマスク体験」の学習を位置付け、障害者に対する理解を深めている。その学習を生かすために、第5学年における総合的な学習の時間で「調べよう！パラリンピック」及び体育科で「ブラインドサッカー」を取り入れたゴール型の学習を設定した。
- ・ブラインドサッカーは、視覚をアイマスクの着用によって遮られるため、児童には頭部保護のためにヘッドギアの着用を義務付けた。また、安全面配慮のため、サイドライン上に観戦者を配置してプレイヤーのコート外への進行を防ぐ役をつくった。

#### (成果)

- 第5学年の「オリンピック・パラリンピックに関するアンケート調査」においては、「オリンピック」については全員が「知っている」と回答していたが、「パラリンピック」については、33%と低かった。そこで、このような実態である児童に総合的な学習の時間で「調べよう！パラリンピック」を設定し、パラリンピックの歴史、使われている用具、ルール、選手の思い等について学習していくことができたことは、「パラリンピック」に対する認識を高め、「障害者スポーツ」、「障害者問題」についての考えを深めることにもつながった。
- 体育科学習の中に、総合的な学習の時間における「福祉学習」の視点からブラインドサッカーを設定できたことも、先述した成果につながったと考える。

### 【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う課題点】

- 今回、全学年を対象にした講演会を設定したり、第4学年及び第5学年の総合的な学習の時間や体育科の学習で、全教職員に対して実施要項の提案をしたりしていくことで、本事業の趣旨や概要について触れることはできたが、まだ共通認識のもとでの取組の推進は不十分な点が見られる。来年度に向けて、実施計画を早急に固め、本年度の取組を継続しつつ、学校全体で取組を推進していく必要がある。